

課題

- ・進んで自分の思いを伝えることに苦手意識をもっている児童(3～6年生合計)が約40%いる。(児童アンケートより)
 - ・ねらいとした表現を習得できるが(知識及び技能)、目的・場面・状況に合わせて既習事項を活用して会話することが苦手な児童が多い。
- ⇒既習表現を活用して会話を続けることに慣れていないため、自信をもてていない。※『思考力、判断力、表現力等』の育成が課題

具体的な取組と工夫

○会話数系統表

言語の使用場面に合わせて、ねらいとする表現を身に付けさせるために、「ひとまとまりの会話」を通して習得させるようにした。既習事項を活用して会話数を系統的に増やしていきけるよう、会話数を「往復数」を単位に表し、段階ごとに目安を定めた。

【会話例】

低学年	中学年	高学年
1～4往復	4～6往復	6～8往復

○Reaction&Connected Words系統表

相手との会話をつなげて、コミュニケーションを深めていけるよう、褒めたり、驚いたり、質問したりといったリアクション言葉に慣れ親しめるようにした。それぞれの表現をどの時期に扱うかを段階ごとに系統表にまとめた。

基本表現	段階	表現方法の極み習得
対話の開始	低	Hello. (こんにちは) / How are you? (調子どう?) / Hi. (元気?) I'm _ and you? (わたしは～あなたはどう?)
	中	What's up? (元気?) / Nice to meet you. (はじめまして)
続の返し	高	Excuse me. (失礼します) / Nice to see you. (またあえてうれいします)
	低	What's up? (相手の返答をそのまま繰り返す) Really? (ほんとに?) Wow! (わお!) / Oh, not (おん)
一言返答	高	You like _? (相手の返答を文で繰り返す)
	低	Good. (いいね) / Nice. (ナイス) / Yes. (うん) O.K. (良かったよ) That's good. (いいね) / I see. (わかったよ) / That's nice. (いいね) Me too. (私も)
高	中	No way. (うそでしょ?) / No kidding. (まさか!)
	高	Good thinking! (いい考えだね!) I think so. (私もそう思います) / I don't think so. (私はそう思いません) Well. (ええと) / Really? (ほんとに?) / That's right. (そのとおり!)

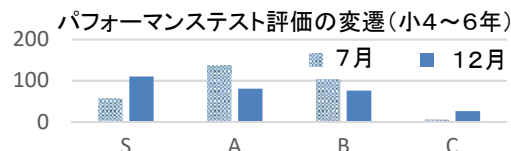
○9年間を見通したCAN-DOリスト(教師用・児童用)

目標とする資質・能力を設定した「学習到達目標」を意識して授業を計画できるよう、学期ごと・領域ごとに、CAN-DOリスト(教師用:下図左)を作成した。また、義務教育段階の外国語に関する学びをつなげていけるよう、上平中学校と連携し、小1～中3までの9年間分をまとめた。さらに、児童自身が学習を振り返り、自己評価できるよう、CAN-DOリストを簡易化して単元ごとにまとめたCAN-DOリスト(児童用:下図右)を児童に配布した。

単元	単元目標	学習到達目標	学習到達目標
1	自己紹介やあいさつができる。	自己紹介やあいさつができる。	自己紹介やあいさつができる。
2	自分の好きなスポーツや食べ物について話せる。	自分の好きなスポーツや食べ物について話せる。	自分の好きなスポーツや食べ物について話せる。
3	相手の話に興味を示し、返答できる。	相手の話に興味を示し、返答できる。	相手の話に興味を示し、返答できる。
4	簡単な文で自分の考えや気持ちを伝えることができる。	簡単な文で自分の考えや気持ちを伝えることができる。	簡単な文で自分の考えや気持ちを伝えることができる。
5	簡単な文で自分の考えや気持ちを伝えることができる。	簡単な文で自分の考えや気持ちを伝えることができる。	簡単な文で自分の考えや気持ちを伝えることができる。

Kamihira CAN-DO リスト

成果

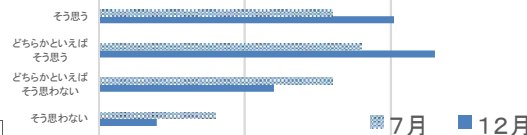


S評価(目的・場面・状況に合わせて既習事項を活用して会話できる)の人数が増加!

教師から見た変容

- ・言語活動の際に扱う会話量を増やしたことで、一定数の会話が続けられるようになり、その中で、自信をもって自分の思いを伝えられる児童が増えてきた。
- ・段階に合わせたリアクション言葉を毎時間1つずつ提示して慣れ親しませたことで、言語活動やパフォーマンステストにおいて、既習表現やリアクション言葉を進んで表現する児童が増えた。

Q.英語を使って、進んで自分の思いを伝えられていますか?(児童アンケート 3～6年生合計)



肯定的回答の割合が59%→73%に上昇!

課題及び改善案

課題

- ・成果(左)のグラフで示した「パフォーマンステスト評価の変遷」において、S評価は増えたものの、C評価も微増した。
- ・成果(右)のグラフで示したアンケート結果において、肯定的回答をした児童の割合は増えたものの、否定的回答をした児童がまだ約3割いた。

改善案

これらは、知識・技能の習得が不十分なまま、思考・判断・表現を重視する言語活動やパフォーマンステストを実施してしまったことが一因だと考えられる。よって、今後は、個に応じた指導を通して苦手な児童の底上げを図ること、既習事項をスパイラル的に指導できるよう授業を工夫することを念頭に置き、授業改善に努めていく。